

福岡市地下鉄長期収支見直しについて

1 意義・目的

地下鉄事業は、当初の建設に巨額の投資を必要とし、その建設費から生じる支払利息や減価償却費の資本費の負担が大きいこと、また、耐用年数の長い資産が多く、長期間にわたって減価償却費が計上されることなどから、適宜料金改定を行いながら、長期的に収支の均衡を図っていく事業である。

このため、健全な経営を行う上での将来の指標として、長期収支見直しを策定している。

2 見直しの背景

平成16年2月に策定した長期収支見直しについて、策定以後の実績及び国の制度変更等を踏まえ、見直しを行った。

- 利用実績を踏まえ、最新のパーソントリップ調査等を活用しながら、将来乗車人員見直しを見直し
- 公的資金繰上償還制度の創設（支払利息の減）
- 資本費平準化債制度の創設（累積資金不足額増加の抑制）

3 経営健全化の取り組み

これまで、「ちかパス」や「おとなりきっぷ」の発売など積極的に増客増収に取り組むとともに、安全に最大限配慮しつつ、民間委託の導入や委託業務の効率化、光熱水費の削減等による運営経費の節減に努めてきた。

今後とも、さらなる増客増収や経費削減に努め、長期的に安定した経営を目指して、経営の健全化を推進していく。

○ 増客増収対策

- ・ IC カード乗車券「はやかけん」の相互利用、「エコちかきっぷ」の発売拡大など企画乗車券の販売促進、「SUBWAY DIET (サブウェイダイエット)」事業の推進等環境面に着目した PR の強化など積極的に増客増収対策に取り組んでいく。また、「はやかけん」の普及に合わせ、料金割引のあり方についても検討を行う。

< 1 日平均乗車人員 >

	(平成 20 年度)	(平成 21 年度)	(平成 30 年度)
全 線	: 345,200 人/日	→ 353,600 人/日	---▶ 367,070 人/日
1、2 号線	: 297,000 人/日	→ 302,000 人/日	---▶ 304,811 人/日
3 号線	: 60,800 人/日	→ 65,200 人/日	---▶ 78,670 人/日

○ 資産の有効活用

- ・平成 21 年度において、天神駅に新規店舗を誘致し、ずい道内に通信ケーブルを増設するなど資産の有効活用を推進する。
- ・引き続き、駅構内への新規店舗誘致等資産の有効活用や新たな広告媒体の開発など増収対策に取り組んでいく。

○ 職員定数の見直し

- ・平成 21 年度において、中洲川端駅の駅務業務の民間委託化や七隈線管区駅の再編などの取り組みにより、業務の効率化を推進し、職員定数を 17 人削減する。また、平成 21 年度見直しの関連として、今後、さらに 9 人削減することとしている。
- ・引き続き、「福岡市 2011 グランドデザイン」(行政改革プラン)を踏まえながら見直しを進め、さらなる職員定数の削減に取り組んでいく。

○ 経費の削減

- ・平成21年度において、信号保安設備、出改札設備等の委託業務の効率化や事務経費の削減などに取り組み、約1億円／年の経費を削減する。
- ・引き続き、さらなる委託業務の効率化など運営経費の削減に努め、10年間で物件費の5%程度の削減に取り組んでいく。
(10年間の削減見込額：約25億円)

○ 支払利息の削減

- ・公的資金繰上償還制度を活用し、平成21年度以降、約75億円の支払利息の削減に取り組む。
(平成19～21年度の借換えによる利子軽減見込額：約89億円)

○ 改良事業費の抑制

- ・更新時期の延長や事業費の低減に取り組むことで、平成21年度の改良事業費を約33億円（前年度約44億円）に縮減する。
- ・引き続き、アセットマネジメントの取り組みを踏まえ、延命策の実施などによる更新時期の延長や整備期間の平準化、事業費の低減を図っていく。